

第2学年 社会科（地理）学習指導案

日時	平成28年11月9日（水）
学級	2年4組(男子17名 女子16名 合計33名)
場所	2年4組教室
授業者	新沼 拓

1 単元名 「中部地方ー活発な産業を支える人々のくらしー」

2 単元について

本単元は、中学校学習指導要領社会編地理的分野の内容「(2) 日本の諸地域」のうち、「(ウ) 産業を中核とした考察」に関わる単元である。

本単元において地域的特色を捉えさせる地域における諸産業に関する特色ある社会的事象に着目し、それらの産業の立地条件を自然的条件と他との競合関係、社会的条件などを関連づけて地域的特色を追求する学習活動が求められている。

本単元では、「(ウ) 産業を中核とした考察」の題材として中部地方を取り上げる。中部地方における産業の特色を、東海地方では中京工業地帯において出荷額が多い機械工業、北陸地方では農家における冬季間の副業として発展した小千谷ちぢみ、輪島塗などの伝統産業や富山の薬売りといった地場産業について取り扱いながら指導する。また、三つの地域によって異なる気候に適応した農業についても取り扱う。これらの産業がどのように地域の自然的条件や社会的条件と関連付いているのか、資料等の活用や小グループでの学び合い活動を通じて、中部地方についての理解を深めたい。

3 生徒について

全体的に素直で真面目に取り組む生徒が多い。また、生徒との会話の内容から、日常生活の中で発生している社会的事象に興味・関心を抱いている生徒も多いように感じられる。そのため、社会科の授業について、学習意欲は比較的高い生徒も多いが、資料等から読み取った内容を把握し、自分の言葉で表現する力については弱い面が見られる。

生徒は自分達が生活している地域については、実体験も多く理解していることも多いが、一方でその他の地域に関しては実体験ではなく、マスメディア等が伝える情報により理解していることが多い。そのため、何らかの災害や話題があった地域に関しては、ある程度の興味・関心、予備知識等は備わってはいるものの、その他の地域に関しては非常に乏しい。

本単元の中部地方に関して、生徒に知っていることはあるか尋ねたところ、多くの生徒は「フォッサマグナ」や「富士山」といった回答が目立った。しかし、既習事項以外の内容を回答した生徒は全くいなかったことから、これまで学習した日本の諸地域と比較しても、中部地方に関する生徒の認知度は非常に低い。しかし、日本の自然環境の内容である「フォッサマグナ」という語句が生徒の回答にあったように、既習内容がある程度定着していることから、さらに知識の定着を図るとともに、中部地方に見られる特色ある自然環境と、地域ごとに発展した諸産業がどのように結び付いているかを学習することで、中部地方についての生徒の認知が広まるように促していきたい。以上の点から、中部地方の地域的特色の理解を図る指導とともに、小グループでの学び合い活動の手法を用いた資料の読み取り活動、そこで得た知識と既習事項を合わせて自分達で考察し、表現する学習ができるように指導したい。

4 単元の指導目標

- ・中部地方の産業を中核とした考察をもとに、地域的特色に対する関心を高める。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・中部地方の地域的特色について、東海、中央高地、北陸の各地域の違いを、自然的条件と社会的条件の両面から考察して捉えさせる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・中部地方の地域的特色に関する様々な資料を基に考察し、その過程や結果を適切に表現する。(資料活用の技能)
- ・中部地方の産業が地域に果たす役割やその動向が、交通網の整備や外国との関係などによって変化していることを理解させる。(社会的事象への知識・理解)

5 単元の指導計画

時	学習内容	思	技	知	指導内容
1 (本時)	中部地方をながめて① 中部地方の生活の舞台	○			・地図帳を使い、中部地方の地形の様子を捉えさせる。
			○		・中部地方を三つの地域に分けて、その気候の特色の違いを雨温図から捉え、その理由を地形などと関連づけて捉えさせる。
中部地方の各地で特色ある産業が見られるのはなぜか。					
2	中部地方をながめて② 中部地方の人々の営み			○	・自然環境の違いや交通網などを示す資料から中部地方の人口や産業の地域的な違いを理解させる。
3	活発な産業を支える人々の暮らし① 工業の発展と地域の変化			○	・東海地方で各種の近代工業が発展し、変容した理由を理解させる。
		○			・北陸地方の地場産業の変容と課題、その解決方法について考察させる。
4	活発な産業を支える人々の暮らし② 自然環境を生かした各地の農業		○		・自然環境のほか、社会条件やその変化を示す資料から、中央高地、東海、北陸の各地域の農業の特色を捉えさせる。
			○		・中部地方各地の農業の様子を示す資料から、各地の特色を生かした農業の姿を捉えさせる。
5	活発な産業を支える人々の暮らし③ 世界と結びつく中部地方			○	・名古屋大都市圏及び北陸と世界との結び付について、それぞれの特色を理解させる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・中部地方の三つの地域の気候の特色について、資料を読み取り、表現することができる。
- ・中部地方の主な地形と気候の特色を、資料を使い読み取ることができる。

(2) 本時の評価

評価基準	おおむね満足できると判断できる状況	「努力を要する」生徒への手立て
社会的な思考・判断・表現	中部地方の地形・気候について、地図帳や雨温図、他の生徒の発表を参考にし、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視の際、どのように表現すればよいのかを説明する。 ・机間巡視の際、考える視点を助言する。 ・生徒が記入した文章をスクリーンに映し、記述する際の参考にする。(共有化・視覚化)
資料活用の技能	中部地方の地形について地図帳を参照し、白地図に書き込むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視の際、地図と白地図の見方を助言する。 ・生徒が記入した白地図をスクリーンに映し、まとめ方の参考にする。(共有化・視覚化)

(3) 本時におけるユニバーサルデザインの主なポイント

- ・「共有化」…グループ学習を行い、互いの考えを共有することで理解を深める。作業を共有化することにより、生徒同士が教え合うことで理解を深める。
- ・「視覚化」…資料等を使用することで、よりイメージが深まり、生徒の理解を深める。
- ・「構造化」…授業展開を板書することにより、授業内容と進行状況がわかるようにする。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価	UDの視点
導入	1 中部地方の導入	1 中部地方の地図を示し、県名を確認する。中部地方について知っていることを確認し、発表する。 ・富士山、フォッサマグナ ・東海、北陸、中央高地 ・わからない	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい内容を求めずに、大まかに捉えさせる。 ・中部地方の写真や地図等の資料を提示し、生徒の考えをより引き出すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有化 ・視覚化
10分	2 内容の焦点化	2 提示した資料から、中部地方の自然環境について取り扱うことを確認する。		
	3 学習課題設定	3 学習課題を確認する。		
中部地方の自然環境にはどのような特色が見られるのだろうか				
展開	4 学習の流れの確認	4 本時の学習内容が主に中部地方の地形、気候であることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の流れを明確にする。 	

35分	5 中部地方の地形 ・白地図に書き込む ・日本アルプス ・フォッサマグナ	5 地図帳を参考に、中部地方の主な山脈、河川、平野などを白地図に書き込む。 ・富士山 ・飛騨山脈 ・木曾山脈 ・赤石山脈 ・信濃川 ・浅間山 ・越後平野 ・濃尾平野 ・甲府盆地 ・伊勢湾	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を参考にさせながら、白地図に記入させる。 ・グループで作業させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○主体性を持ち、作業に取り組むことができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が作業した白地図をスクリーンに映し確認する。 ・日本アルプス、フォッサマグナについて、位置等の説明を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚化 ・共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚化
	6 三つの地域の気候 ・東海地方の気候 ・中央高地の気候 ・北陸地方の気候	6 雨温図から中部地方の三つの地域の気候の特色を読み取る。 ・季節風の影響を受けるため、夏の降水量が多く、冬は少ない。気温は比較的温暖である。 ・内陸に位置しているため、年間を通して降水量は比較的少ない。冷涼な気候である。 ・季節風の影響を受けるため、冬の降水量が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返りながら、三つの地域の気候に触れる。 ・浜松、松本、高田（上越）の雨温図から、各地域の気候の特色を考えさせ、学習シートに記述させる。 ・生徒のまとめたものを参考に、気候の特色について板書する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○中部地方の三つの地域の気候の特色について、資料を読み取り表現することができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚化 ・構造化
終末	7 まとめ 中部地方は、三つの地域に分かれている。北陸地方は日本海側の気候であり、冬に降水量が多い。中央高地には日本アルプスと呼ばれる飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈が連なる。また、気候は冷涼で内陸性の気候である。東海地方は太平洋側の気候であり、夏の降水量が多い。	7 本時を振り返える。	<ul style="list-style-type: none"> ・記述する視点として、三つの地域ごとにまとめることを確認する。 ・ある程度時間を確保した後、スクリーンに穴埋め式の記事を示す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○中部地方の自然環境について学習内容を生かし、まとめることができる。</div>	
5分	8 次時の予告	8 次時の内容を予告する		

